

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	5 子育て支援事業の充実	② 施策番号	4305
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 子どもと大人が夢や希望を持ち、ともに成長できるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 子育てしやすい環境の整備		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保育子育て支援課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	・未就園の子どもとその保護者 ・小学生以下の子どもとその保護者 ・乳児とその保護者
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	地域で子育て支援事業を実施し、子育てに関する悩みやストレスを解消してもらい、安心して子育てができる環境を提供する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	少子高齢化が進行するなか、女性の社会進出による子育てと仕事の両立、地域社会における連帯意識の希薄化・孤立化、核家族化の進行により、育児の孤立化、地域の子ども同士の遊び場不足など子育て環境は複合的に深刻化している。そのため、保育サービスをはじめとした、子育て支援施策のさらなる充実が求められる。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① ひだまりルーム参加者数 計算式	人	親子が参加することで、子育て中の悩みや不安を軽減し孤立する家庭を減らしていく。また、保護者同士でつながり、子育てのイライラを解消したり、子育てに必要な知識を知らせる。
② ファミリーサポートセンター活動件数 計算式	件	就労する保護者等が仕事と子育てを両立できる環境づくりを行い、育児不安・負担を軽減する。
③ 計算式		

	指標名	単位	実績					R2目標	備考
			H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標		
①	ひだまりルーム参加者数	人	目標値	6,359	6,111	6,183	6,000	6,000	
			実績値	6,359	6,111	6,183	—	—	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
②	ファミリーサポートセンター活動件数	件	目標値	625	449	177	180	180	
			実績値	625	449	177	—	—	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	ファミリーサポートセンター事業	活動数	件	449	177	180	8,035	6,208	6,561	B	イ b	○
2	地域子育て支援拠点事業	ひだまりルーム参加者数	人	6111	6183	6000	39,832	30,334	30,863	A	ア	◎
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						47,867	36,542	37,424			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	保育所の民営化により生じた効果額を用いて子育て支援事業の展開を図ることで、共働き家庭においては、安心して働き、子どもを産み育てられる環境づくりに貢献している。また、在宅における子育てを行う家庭においても、同じ環境におかれている保護者との交流の場を設けることで、保護者のリフレッシュが図られ、安心して子育てができる環境づくりが可能となる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	少子化の流れにあっても、支援を必要とする児童数は増えてきている。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市内3法人に地域子育て支援拠点事業を委託し、公設と併せ4か所で拠点事業を実施している。 ファミサポ事業については、直営で実施しているが、全国的には委託事業で実施している自治体の方が多いため、委託での実施について検討する余地はあると考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	平成27年度から地域子育て支援事業への参加者数が激増している。これは、「ひだまり」の拡張により、参加者数が増大したものであるが、それだけのニーズが以前からあったという事が読み取れるため、今後もさらなる事業の充実に向けていく必要があると考えている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	地域子育て支援事業については、子育てがしやすい環境の充実という観点からしても、さらなる充実を図るべきであると考ええる。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	ひだまりの事業拡充を実施すべく、これまでも補助金を活用し施設の改修及び設備の充実を行ってきたが、今後も2階部分の照明機器の修繕、園庭遊具の修繕を計画的に行う必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	2階部分、照明機器の修繕。 園庭遊具の修繕。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	2階部分、テラス、エアコンの修繕。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	地域子育て支援センター「ひだまり」とファミリーサポートセンター事務所の統合。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	成果指標は目標値付近で推移しており、適切に取り組まれている。 老朽化対策については計画的修繕に取り組まれるとともに、今後のニーズへの適切な対応を図るため、民間活力の導入など幅広い展開について検討を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある